

CSW69参加報告レポート

名前: シェヘラザード

1. 自己紹介(100字程度)

大学四年のシェヘラザードと言います。約3年間SRHRユースアライアンスで活動する中で、ジェンダー、人種、経済状況、障害の有無に関わらず、できるかぎり公平な、傷つけない社会制度の構築を探しています。身体、経済等の自分の特権性を理解した上で、責任を持って多くの人の「声」を「代弁」します。

2. どのようなイベントに参加したのか。イベントを通して感じたこと、心が動いたこと(500字程度)

以前から中東諸国に関心を持っていたので、今回も関連イベントに多く参加しました。その中で、パレスチナ自治区で活動するNGOが主催したTestimony From Gaza(ガザからの証言)は衝撃的でした。戦争などの非常時においては通常時に弱い立場に置かれた人は、より過酷な環境に追いやられます。今回のジェノサイドでも、女性や子どもが健康被害、経済的打撃を受けていました。中には麻酔薬なしのまま道端で出産を余儀なくされた女性もいたそうで、生殖の権利が脅かされています。ただ、病院のインフラが壊れ機能していない中でも、病院に従事する女性は、挑戦や不屈の精神の象徴でもあると、力強いメッセージもありました。また、以前から中東はジェンダー平等の達成度合いが遅れているという言説がありますが、今回中東諸国主催のイベントを訪れる中で、一律に「遅れている」のではないと理解が深まりました。このため、前述したようなパレスチナのSRHRの危機的状況と同時に、中東への誤解を解くというように、偏見のない見方を日本社会において養う必要があると考えています。



台湾の政府が主催するイベント「Advancing Gender Equality in Asia : Taipei(台北から見る、アジアのジェンダー平等達成について)」も、大変参考になるものでした。UNDPのGender Inequality Indexでは台湾は世界7位(2024)の高ランクに付けています。市民社会のみならず、台湾政府もジェンダー平等達成に向け施策を講じ積極的に成功に導いたそうです。このように、日本も、台湾を模倣できる部分が大いにあります。



②CSW69の経験を今後どのように活かすか。今後の抱負(500字程度)

主に3つあります。一つ目に、社会人になった後も、ジェンダー平等への活動をやめずに、自分に最も近いコミュニティから始めるため、会社内で委員会やセミナーを開催します。ナプキン無料配布から、女性管理職のガラスの天井を壊すなど制度に関する挑戦をする予定です。

2つ目は、日本における、中東への親近感を広めることです。私は去年からアラブ文化を広めるカフェを運営しているのですが、これから、普段は、「死亡者数」など、数字に矮小化されているパレスチナ人女性の「声」や「顔」を伝えるために、彼女達へのインタビュー等の機会を作りたいと準備しています。ジェノサイドにより女性や子どもが被害を受け続ける構造を変えられるように、遠い日本からでも尽力します。

最後は、東アジアの市民社会が、ジェンダー平等のための連帯を高められるよう力を尽くしたいです。前述した台湾の制度改革に向けた市民社会運動から、NGO等は、各国の政党や保守的な団体と交渉するか、どのような伝え方が効果的かを学ぶことができると考えます。特に次世代育成の観点から、日中韓台の若者で話し合う会議を開催するために、内閣府に相談してみたいです。さらに、他国の社会運動をみて、日本における社会運動への敷居が高い現状を変える必要があると考えたので、アクティビズムのメソッドを学ぶ場所づくりにも貢献します。